

第5回 東日本大震災追悼チャリティコンサート
鎮魂と復興への祈り

ブラームス：ネーニエ(哀歌) 作品 82

Brahms : Nänie op.82

モーツァルト：ラウダーテ・ドミヌム(主を褒め讃えよ)

証聖者の盛儀晩課 ハ長調 K339より

Mozart : Laudate Dominum from "Vesperae solennes de confessore K339"

フォーレ：レクイエム ニ短調 作品 48

Fauré : Requiem d-moll op.48

指揮：前田幸康

合唱：東日本大震災メモリアル合唱団

ソプラノ 針生美智子 バリトン 原田 圭

オーケストラ：東日本大震災メモリアル管弦楽団

2016年3月13日(日) 3:00pm 上野学園 石橋メモリアルホール

主催：東京合唱団

<http://tokyochor.jp>

ごあいさつ

本日は、第5回東日本大震災チャリティコンサート「鎮魂と復興への祈り」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

東京合唱団は、他の合唱団からの有志参加者とともに、大震災のまさに1年後の2012年3月11日に、第1回の本チャリティコンサートを上野学園 石橋メモリアルホールで開催いたしました。その後も毎年同じ時期にこのコンサート进行、お陰様で今回第5回を迎えることになりました。多くの合唱愛好家の皆様にも広く参加を募り、また学校法人上野学園のご協力のもと、同大学の教員、卒業生、学生の皆様にもこの趣旨に賛同いただき、ソリストやオーケストラのメンバー、あるいは合唱団のメンバーとして参加いただいております。

これまでのコンサートで得られた純益金は、当日会場での募金をあわせ、被災地の音楽の復興に役立てるため、被災された老人福祉施設や幼児保育施設にピアノや他の楽器をお届けする費用にあててまいりました。具体的には、これまでの4年間に、株式会社橋本ピアノ様、及び小野ピアノ工房調律センター様等のご協力により、10施設に11台の再生ピアノを寄贈したほか、2施設に新品の電子ピアノ・クラビノーバを、3施設に鼓笛隊用のドラム等を寄贈することができました。また、ピアノ等の寄贈に併せて合唱団の有志メンバーが現地を訪問し交流を深めることもできました。2015年も6月19・20日と11月29日に、5か所の老人福祉施設と保育施設を訪問し、ミニコンサートを行っております。詳しくは、本プログラムの12,13ページ及び東京合唱団のホームページに記載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

大震災からまる5年が経ちましたが、被災地の復興はまだまだ途上にあります。今回も参加者全員、震災で犠牲になられた方々の鎮魂と被災地の一日も早い復興を願い、心を込めて演奏いたします。そして、被災地の音楽復興に少しでもお役に立ちたいと念願しております。今後ともどうぞ変わらぬご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

2016年3月13日

東京合唱団団長 上野紘機

Program

ブラームス：ネーニエ(哀歌) 作品82

Brahms : Nänie op.82

モーツァルト：ラウダーテ・ドミヌム(主を褒め讃えよ)

証聖者の盛儀晩課 ハ長調 K339より

Mozart : Laudate Dominum

from “Vesperae solennes de confessore K339”

• • • 休憩 • • •

フォーレ：レクイエム ニ短調 作品 48

Fauré : Requiem d-moll op.48

演奏者紹介



前田幸康 指揮 *Maeda Yukiyasu conductor*

国立音楽大学卒業。チェロを小沢弘、黒沼俊夫、小野崎純、マルティン・オースタータークの各氏に師事。指揮を前田幸市郎、伊達良、クラウス・ヘーベルマンの各氏に師事。1974年1月フライブルク市立交響楽団のメンバーとなる。1985年より、プロアルテ・カンマー・オーケストラ・フライブルクの首席チェリスト。1990年より日本において指揮活動をしている。W.A.モーツァルト「レクイエム」、J.G.L.モーツァルト「ミサソレムニス」(日本初演)、グラウンのオラトリオ「イエスの死」(日本初演)、ブラームス「ドイツレクイエム」「ネーニエ」、J.S.バッハ「ミサ曲短調」「ヨハネ受難曲」、フォーレ「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、メンデルスゾーン「パウロ」、ドヴォルザーク「レクイエム」、ブッチーニ「グローリア・ミサ」、番場俊之「子規の短歌による星の歌、無常の歌、夏の歌」「春の岬」より(三好達治の詩による)』等を指揮。1985年フライブルク市よりカンマームズィカーの称号、1989年同市より国際文化交流功労賞メダルを授与された。2009年日本国外務省の国際文化功労賞を受賞。上野学園大学音楽学部音楽学科教授。東京合唱団音楽監督。

東日本大震災メモリアル管弦楽団

2012年、第1回東日本大震災チャリティコンサート「鎮魂と復興への祈り」のために、上野学園大学の教員有志およびその友人を中心に結成された。日本を代表するオーケストラに所属、あるいはプロとして各方面で活躍中のメンバーも含まれる。東京KMG管弦楽団の有志も参加。





針生美智子 ソプラノ *Hariu Michiko soprano*

北海道小樽市出身。札幌大谷短期大学卒業、同専攻科修了。文化庁オペラ研修所第11期修了。第二回藤沢オペラコンクール第1位及び福永陽一郎賞受賞。ハイメスコンクール第1位。サンタマルゲリータリグレ国際声楽セミナーで大賞受賞。同地において「リゴレット」ジルダで出演。北海道文化財団、文化庁派遣芸術家在外研修員としてローマに留学。札幌定期「カルミナ・ブラーナ」「讃歌」をはじめ、第九、レクイエム、メサイア等のソリストを務めている。新国立劇場「イエヌーファ」「パルジファル」「夕鶴」、二期会「魔笛」、日生劇場「セビリアの理髪師」「夕鶴」、北海道二期会「フィガロの結婚」、日本オペレッタ協会「こうもり」「メリーウィドウ」「チャールダッシュの女王」、東京オペレッタ劇場「地獄のオルフェ」「魔笛」「ジェロルスタンの女大公」等多数出演している。上野学園、札幌大谷大学非常勤講師。東京オペラプロデュースメンバー。東京室内歌劇場、二期会会員。



原田 圭 バリトン *Harada Kei baritone*

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程、及び博士後期課程修了。博士号(音楽)取得。在学中に安宅賞受賞。「藝大メサイア」公演のソリストとしてデビュー。藝大定期演奏会、台東区第九等のソリストを務める。東京文化会館新進音楽家オーディション合格、デビューコンサートに出演。第16回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位入賞、併せて中田喜直賞受賞。第77回日本音楽コンクール入選。新国立劇場「黒船」、二期会「魔笛」、日生劇場「夕鶴」等のオペラ、宗教曲のソリストとして多数出演。プラハ国立歌劇場特別演奏会モーツァルト「レクイエム」公演にソリストとして抜擢され、プラハ国立歌劇場管弦楽団と共演。ジャパン・アーツ主催による歌劇「夕鶴」公演(現田茂夫指揮、市川右近演出、佐藤しのぶ主演)の全国ツアーに運ず役で出演し、好評を博す。2016年の再演にも同役で全国ツアーに出演予定。東京藝術大学、上野学園大学、日本大学芸術学部非常勤講師。二期会会員。

© S Imura

平野裕樹子 練習ピアニスト *Hirano Yukiko*

日本大学芸術学部を総長賞を受賞して首席で卒業。読売新人演奏会出演。市川市文化会館新人オーディション優秀賞受賞。室内楽を鳩山寛氏、ピアノを神野明氏に師事。ソロ活動としてこれまでに7回のリサイタルを東京で開催。2008年より東京合唱団練習ピアニスト。日仏現代音楽協会、練馬区演奏家協会会員。

水野彰子 練習ピアニスト *Mizuno Shoko*

愛知県立明和高等学校音楽科、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。同大学院修士課程音楽研究科器楽専攻室内楽研究分野修了。修了時に大学院アカンサス音楽賞を受賞。ピアノソロの他、声楽伴奏、室内楽、合唱伴奏ピアニストとして活動。

永澤麻衣子 発声・練習指導 *Nagasawa Maiko*

国立音楽大学声楽科卒業。声楽を瀬戸美子、清水明子、田島好一、吉澤祐江の各氏に師事。また、ドイツや日本においてCh.d.プロイン氏に師事し、リート解釈などの研鑽を積んでいる。ヴォイストレーナーとして多くのアマチュア合唱団の指導を行なうとともにソリストとしても活動。東京合唱団発声・練習指導者。

東日本大震災メモリアル合唱団

2012年の第1回東日本大震災追悼チャリティコンサートを開催後、東京合唱団が第2回コンサートのために改めて呼びかけて結成された。東京合唱団、台東区合唱連盟加盟合唱団、上野学園大学・同短期大学部学生・職員、学習院OB合唱団、東京大学音楽部OB合唱団アカデミカコール等の有志および多数の一般の応募者から成る。

Brahms : Nänie op.82

ブラームス:ネーニエ(哀歌) 作品 82

Auch das Schöne muß sterben, das Menschen und Götter bezwinget!
美しいものもまた死なねばならない 人々も神々も逃れることのできない掟!

Nicht die eherne Brust rührt es des stygischen Zeus.
ゼウスの青銅の心を動かすことは出来ない。

Einmal nur erweichte die Liebe den Schattenbeherrscher,
かつてただ一度だけ、愛が冥界の王の心を溶かしたことがありはした
Und an der Schwelle noch, streng, rief er zurück sein Geschenk.
しかし出口にたどり着く間に、厳しくも王はその贈り物を取り返した。

Nicht stillt Aphrodite dem schönen Knaben die Wunde,
アフロディテさえも、かの美しき少年の傷を癒すことはなかった
Die in den zierlichen Leib grausam der Eber geritzt.
猪に残酷に引き裂かれたその細くやわらかな肉体を。

Nicht errettet den göttlichen Held die unsterbliche Mutter,
神のごとき英雄であろうとも、その不死の母が救うことはなかった
Wenn er, am skäischen Tor fallend, sein Schicksal erfüllt.
スケーアの門にて倒れ、彼が受け入れたその運命を。

Aber sie steigt aus dem Meer mit allen Töchtern des Nereus,
だが、母は海底よりネレウスの娘たちと共に昇り
Und die Klage hebt an um den verherrlichten Sohn.
偉大なる息子のために嘆きの歌を歌いあげた。

Siehe, da weinen die Götter, es weinen die Göttinnen alle,
見よ、神々が泣いている、女神たちも皆泣いている
Daß das Schöne vergeht, daß das Vollkommene stirbt.
美しきものが色あせることに、完全なるものが死にゆくことに。

Auch ein Klaglied zu sein im Mund der Geliebten ist herrlich,
愛する者の口より出ずる嘆きの調べは輝かしいものだ
Denn das Gemeine geht klanglos zum Orkus hinab.
なぜなら、凡人たちは音も立てずに冥界へと降りていくのだから。

ソプラノ 橘田浩子 訳

Mozart: Laudate Dominum
from “Vesperae solennes de confessore K339”

モーツァルト：ラウダーテ・ドミヌム（主を褒め讃えよ）

証聖者の盛儀晩課 ハ長調 K339より

Laudate Dominum omnes gentes:

全ての国よ 主を褒め讃えよ

Laudate eum omnes populi:

もろ人よ 主を褒め讃えよ

Quoniam confirmata est supernos misericordia ejus:

我らに与えたもう主の慈しみは

et veritas Domini

大いなるものなればなり

manet in æternum.

主のまことは永遠なり

Gloria Patri, et Filio, Spiritui Sancto.

父と子と聖霊に栄光あれ

Sicut erat in principio,

神の御世は 初めのときも

et nunc, et semper, et sæcula sæculorum.

今も、絶えることなくとこしえなればなり

Amen.

アーメン

Fauré: Requiem d-moll op.48

フォーレ:レクイエム ニ短調 作品48

I Introït et Kyrie

Requiem æternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.

Te decet hymnus, Deus in Sion,
et tibi reddetur votum in Jerusalem:
exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.

Kyrie eleison.
Christe eleison.

II Offertoire

O Domine Jesu Christe, Rex gloriæ,
libera animas defunctorum
de pœnis inferni, et de profundo lacu.
O Domine Jesu Christe, Rex gloriæ,
libera animas defunctorum
de ore leonis, ne absorbeat tartarus.
O Domine Jesu Christe, Rex gloriæ,
ne cadant in obscurum.

Hostias et preces tibi, Domine,
laudis offerimus:
tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus.
Fac eas, Domine, de morte transire ad vitam.
Quam olim Abrahæ promisisti, et semini ejus.

O Domine Jesu Christe, Rex gloriæ,
libera animas defunctorum
de pœnis inferni, et de profundo lacu,
ne cadant in obscurum. Amen.

III Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus
Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt cœli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.
Sanctus.

第1曲 入祭唱とキリエ

主よ、永遠の安息をかれらに与えたまえ。
そして、絶えざる光をかれらの上に照らしたまえ。

神よ、シオンは主への賛歌をうたうのにふさわしく、
エルサレムでは誓約が果たされるでしょう。
すべての肉なるものが向かうべき主よ、
われらの祈りを聴きたまえ。

主よ、憐れみたまえ。
キリストよ、憐れみたまえ。

第2曲 奉献唱

栄光の王、主イエス・キリストよ、
死せる者の魂を
地獄の罰と深い淵から救い出したまえ。
栄光の王、主イエス・キリストよ、
死せる者の魂を
冥府にのみこませず、獅子の口から解き放ちたまえ。
栄光の王、主イエス・キリストよ、
それらが闇に陥りませんように。

主よ、讃美のいけにえと祈りを
われらは主に捧げます。
今日、われらが記念を行うすべての魂のために、
それを受け入れたまえ。
主よ、これらの魂を死から生へ移したまえ。
かつて主がアブラハムとその子孫に約束したもうたように。

栄光の王、主イエス・キリストよ、
死せる者の魂を
地獄の苦難と深い淵から救い出したまえ。
それらが闇に陥りませんように。 アーメン。

第3曲 聖なるかな

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の神なる主。
主の栄光は天地に満つ。
天のいと高きところにホサンナ。
聖なるかな。

IV Pie Jesu
Pie Jesu Domine,
dona eis requiem, sempiternam, requiem.

V Agnus Dei
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
sempiternam, requiem.

Lux æterna luceat eis, Domine:
Cum sanctis tuis in æternum, quia pius es.
Requiem æternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis.

VI Libera me
Libera me, Domine, de morte æterna,
in die illa tremenda, in die illa:
Quando cœli movendi sunt et terra:
Dum veneris judicare sæculum per ignem.
Tremens factus sum ego, et timeo,
dum discussio venerit, atque ventura ira.

Dies illa, Dies iræ, calamitatis et miseriæ,
dies illa, dies magna et amara valde.
Requiem æternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis.

Libera me, Domine, de morte æterna,
in die illa tremenda, in die illa:
Quando cœli movendi sunt et terra:
Dum veneris judicare sæculum per ignem.

Libera me, Domine, de morte æterna,
Libera me, Domine.

VII In Paradisum
In paradisum deducant Angeli:
in tuo adventu suscipiant te Martyres,
et perducant te in civitatem sanctam Jerusalem.
Chorus Angelorum te suscipiat,
et cum Lazaro quondam paupere
æternam habeas requiem.

第4曲 慈悲深きイエスよ
慈悲深きイエスよ、主よ、
かれらに安息を与えたまえ、永遠の安息を。

第5曲 神の子羊
神の子羊、世の過ちを除きたもう主よ、
かれらに安息を与えたまえ。
神の子羊、世の過ちを除きたもう主よ、
永遠の安息を。

主よ、永遠の光明をかれらの上に輝かせたまえ、とわに
主のもとにある聖人たちとともに、慈悲深き主よ。
主よ、永遠の安息をかれらに与えたまえ、
そして、絶えざる光をかれらの上に照らしたまえ。

第6曲 われを解き放ちたまえ
主よ、われを永遠の死から解き放ちたまえ、
その恐ろしい日に。
天と地が震い動くその日、
主はこの世を火をもって裁くために来られたもう。
われは震え、恐れおののく。
審判が来たり、怒りがくだろうとしているゆえに。

その日こそ、怒りの日、災いの日、悩みの日、
偉大なそして大いなる悲嘆の日。
主よ、永遠の安息をかれらに与えたまえ、
そして、絶えざる光をかれらの上に照らしたまえ。

主よ、われを永遠の死から解き放ちたまえ、
その恐ろしい日に。
天と地が震い動くその日、
主はこの世を火をもって裁くために来られたもう。

主よ、われを永遠の死から解き放ちたまえ。
主よ、われを解き放ちたまえ。

第7曲 楽園にて
天使たちが(あなたを)楽園へいざなうように。
あなたが到着したとき、殉教者たちが出迎え、
聖なる街エルサレムへ導くように。
天使たちの歌声があなたを出迎え、
かつて貧しかったラザロが入った
永遠の安息を(あなたが)得んことを。

Brahms: Nänie op.82

ブラームス:ネーニエ(哀歌) 作品82



1889年頃のブラームス

1880年オーストリア・プレスバウムにて作曲、翌年スイス・チューリッヒのトンハーレ教会にてブラームスの指揮により初演。

ブラームスは1833年5月7日、ドイツ北部のハンブルグに生れた。音楽家の父からヴァイオリンを、地元の名教師マルクスゼンからはピアノと作曲、更にはバッハ、ベートーヴェン等の音楽の奥義を師事した。19歳の頃、ハンガリー系のヴァイオリニスト・レメーニとデュオを組んだことから、ジプシー音楽や民族音楽にも強く魅せられる。ブラームスの支援者でもあった指揮者のヨアヒムに紹介された、シューマン夫妻からも高い評価を得たが、夫人のクララとは彼女の逝去迄の40年にも及ぶ親交となった。

ベートーヴェンの後継者と言われ続けた重圧からか、“ベートーヴェンの第10交響曲”と絶賛された第1交響曲を完成させたのは、なんと43歳になったのことだが、声楽曲の分野では、18歳での「愛のまこと」op.3-1に始まり、遺作とも言える「四つの厳粛な歌」op.121の63歳まで、毎年のように作曲している。独唱曲300、二重唱曲20、合唱・四重唱曲60がその概数だが、更にオーケストラとの協演の分野では、「ドイツ・レクイエム」op.45に始まり、「リナルド」op.50、「アルト・ラブソディ」op.53、「運命の歌」op.54、「勝利の歌」op.55、「運命の女神の歌」op.89、そ

して本日演奏の「ネーニエ」op.82の傑作が繰乱している。

「ネーニエ」は親友の若き画家・フォイエルバッハの死を悼んで書かれたもので、テキストはドイツの詩人シラーの作品「ネーニエ」(ラテン語で哀悼歌の意)である。詩の中には、オルフェウスとその妻エウリディーチェ、アフロディテと美少年アドニス、アキレスの母テティスと海神ネレウスの三つのギリシャ神話が編み込まれているが、ギリシャ流の「死」は「眠り」の兄弟、逝く人の魂の浄化など、古代ギリシャの精神が音楽のコンセプトとなっていて、曲は官能的と思えるほど美しく、しかも底流には特有の諦観の情が漂う、ブラームスの合唱曲のうちで最も芸術的な作品と評価されている。

曲の前半は二長調4分の6拍子、ブラームスお気に入りのオーボエの、緩やかなイントロに始まる前奏部の後、合唱の「美しいものも…」のフレーズが導き出され、展開が進む。中央部では嬰へ長調4分の4拍子に転じ、“美しいものの死”を感動的に嘆くが、再び二長調4分の6拍子に戻り、「愛する者の口より出ずる嘆きの調べは輝かしいものだ」を感銘的に歌って終る。

ブラームスがおなじみの顫ひげを生やし出したのは、ウィーンでの活躍が始まってしばらくの44歳の時だが、作曲家としてのライフスタイルにも多くの変化が始まっていた。ペルチャッハやイシュルなどの景勝地での作曲活動、更には45歳の時から始まったイタリア旅行は、その後の15年で9度も重ねられた。イタリアの自然、芸術から受ける刺激、情感はもう彼の創作活動には不可欠な要素となっていたのである。

「ネーニエ」は同時期に書かれた「ヴァイオリン協奏曲」op.77、「ヴァイオリンソナタ第1番・雨の歌」op.78と共に、北ドイツの哀愁を帯びた抒情性とイタリアの明るい情感とが見事に融合した珠玉の傑作である。

東京合唱団 笹村寛太郎

Mozart : Laudate Dominum

from “Vesperae solennes de confessore K339”

モーツァルト:ラウダーテ・ドミヌム(主を褒め讃えよ)

証聖者の盛儀晩課 ハ長調 K339より

Laudate Dominum(主を褒め讃えよ)は、Vesperae solennes de confessore K339(証聖者の盛儀晩課ハ長調K339)の第5曲である。

晩課Vesperaeとは、カトリックの聖務日課で1日8回ある祈りの一つで日没時にとり行われるものをいう。信者が一人も来なくても、予定の時刻になると司祭の司式で始まる。教会は資本主義の世界ではない。昼間教会に行く時間のない人にとって、晩課は特に重要である。通常の聖務日課は多くは単旋律のグレゴリア聖歌ですまされるが、晩課にはそのための曲がルネサンス以降多く作られている。盛儀solennesとは、司式の読唱に合唱を伴うものを呼ぶが、荘厳と訳されることもある。一方、証聖者のというタイトルは後世の人が付け加えたものだが、「証聖者confessoreとは、本来異端裁判に臨んでも毅然として信仰を表明し、拷問などに耐え抜いた人を指した」(Classic Air)。異端裁判を経ずとも、現在でも各地からの推薦に基づき選考され証聖者の称号を得る人があるそうだ。

モーツァルトには晩課のために書かれた音楽が未完のものを含め3曲あるが、K339は、旧約聖書詩篇の五つと新約聖書ルカ伝第1章第46～55節までの聖母讃歌(マニフィカート)の合計六つから成り、循環形式で約31分かかる。1780年に作られた、ザルツブルグ時代の悼尾を飾る傑作である。まだローマ典礼にうるさい大司教の配下にあった関係で典礼様式を厳格に守っているが、全曲管弦楽が付き、モーツァルトの芸術家としての欲求を満たすものとなった。「二つのヴェスプレの総譜を、入れてくれてもかまいません。それらを、ただヴァン・スヴィーテン男爵に聴かせたいからです」(モーツァルト、1783年3月12日)。自信作だったのであろう。

本曲は、極めて甘美なソプラノ独唱に始まり、後半合唱に一旦渡した後、再びアーメンでソプラノがからみつく。ブラームスのアルト・ラプソ



ディー作品53を思い出す。

「しみじみと心に染み入る曲で、冬の雪がしんと降り積もる夜に聴きたい曲」(オバタケイコ)であり、「響きの魔力と、いっさいの『教会的なもの』に無頓着な表現の詩情とを持つ曲。モーツァルトのこのような楽曲を知らない者は、モーツァルトを知る者とは言えない」(Einstein)。「日本の合唱団はなぜこのようなすばらしい曲を取り上げないのだろう」(井上太郎)。まさに典礼音楽の頂点をなす。時にオペラ的ともいわれるモーツァルトの宗教音楽だが、神を喜ばせようとしたことが、期せずしてそれまでの教会音楽らしからぬ音楽を生み出したのであろう。

東大コーラアカデミー 昭和31年卒 中村 至

Fauré: Requiem d-moll op.48

フォーレ:レクイエム ニ短調 作品48

フォーレ《レクイエム》ノート

レクイエムとは？

レクイエムは、ローマ・カトリック教会で執り行われる、死者のためのミサ曲とその楽曲を指している。「Requiem」という言葉は、冒頭の〈入祭唱〉の第一声で歌われるもので、「安息」を意味している。カトリック教会で、死者の記念日(11月2日)、死の3・5・7・30日後や埋葬日、また命日に歌われる。現存する最古のレクイエムは、オケゲムの1470年前後の作品で、以後500年の間に約1600曲が残されている。バロック期から現代まで名曲は数多いが、モーツァルトの未完の遺作(1791)、ロマン派のベルリオーズやヴェルディの大規模でオペラ的な作品やブラームスの《ドイツ・レクイエム》が人口に膾炙している。聴き手を力づくでねじ伏せるような迫力あるロマン派の傑作群も無論素晴らしいが、レクイエムの白眉は？と問われれば、筆者はモーツァルトとフォーレの作品を挙げたいと思う。両曲ともに、ニ短調である。

フォーレのレクイエム

ガブリエル・フォーレ(1845-1924)がこれを手がけたのは1887年頃だが、1900年のオーケストラ譜出版までに、何と十数年を要している(しかも第6曲は1877年に遡るので、これを数えれば足かけ二十数年がかりといえる)。1888年1月、パリのマドレーヌ教会で初演されたが、第2・6曲は入っておらず、伴奏は室内合奏とオルガン等という簡素なものであった。テキストの省略も多く、レクイエムの中でも、最も特徴的といえる劇的な一章、〈怒りの日〉が省略されている。

全7曲の初演は1893年(第2曲は1889年作曲)で、管楽器が限定され、弦は独奏ヴァイオリンのみという地味な編成だったという。(この版も最近演奏されている。)オーケストラ譜に



若き日の肖像画(1870年頃)

よる初演は1900年6月12日。編成はソプラノ・バリトン独唱、合唱、オーケストラ、オルガンである。合唱の延長のように扱われる独唱、金管やオルガンのにび色を帯びた響きには、ロマン的な華やかさとは無縁のフォーレ特有の瞑想性が反映している。

当初、「死の子守歌」「異教徒的」等と批評されたフォーレは、後年になってから、彼にとって、「死は苦しみというよりも、永遠の幸せと喜びに溢れる解放感に他ならない」と反論している。ポーランドの詩人、シンボルスカは「どんな生であっても不死の瞬間がちょっとだけある」と書く。私たちはこのレクイエムを体験する時、そんな「永遠の瞬間」(サルトル)に立ち会えるのではないか。あの大災害に瞬時に生命を奪われた数え切れない魂に祈りを捧げ、今なお辛い記憶に苦しむ方々に想いを馳せるのに、これほど相応しい音楽があるだろうか。

曲目メモ

I 入祭唱とキリエ

モルト・ラルゴ〜アンダンテ・モデラート ニ短調 4/4
弦楽部のニ音から始まる、厳粛だが重苦しくはない導入ののちに、「レ・ラ・ド・ラ」という4・3度音程(この音程による動機は全曲を通して

出てくる)の清澄な旋律が、曲全体を主導していく。

II 奉獻唱

冒頭部(アダージョ・モルト ニ短調 4/4)では、付点音符を特徴とするオケと合唱が、精緻でみごとなかけ合いを紡いでいく。中間部(アンダンテ・モデラート ニ長調 3/4)では、温かい響きのバリトン独唱が登場、IV、V、そして終曲にまで底流でつながっていく「祈り」のページとなっている。最後に冒頭部が戻ってくる。

III 聖なるかな

アンダンテ・モデラート 変ホ長調 3/4

前半は、弦とハープの柔らかなアルペッジ音型に乗せて、アルト声部を抜いた実質2声部の、平安のページである。突如として、フォルティッシモ(f f)の和弦的なパッセージに入り、最後の2行が高らかに歌われる。そして、最初のピアノニッシモ(pp)のアルペッジ型が回帰して終わる。その絶妙なコントラストが美しい。



マドレーヌ教会

IV 慈悲深きイエスよ

アダージョ 変ロ長調 4/4

ソプラノ独唱(あるいはボーイソプラノ独唱)とオルガン、弦、木管が主導する章。《ベネディクトゥス》の章を避けて《Pie Jesu》が選ばれ、「sempiternam(永遠の)」という語が加わる。これほど深く心にしみ入る慈しみの音楽はちょっと類がない。

V 神の子羊

アンダンテ ヘ長調 3/4

前曲の祈りがさらに深まっていく。テノール声部を皮切りに合唱が8行を歌うと、曲の冒頭の「Requiem～」が再現される。最後に器楽の短いコーダで締めくくられる。

VI われを解き放ちたまえ

モデラート ニ短調 4/4

バリトン独唱から合唱に移ると、突然6/4に転じて、フォルティッシモで「Dies illa, Dies irae(その日こそ、怒りの日)～」が挿入される。全曲の中でも、情念が最も激しく奔流となって流れ出るページとなっている。

VII 楽園にて

アンダンテ・モデラート ニ長調 3/4

ここの、永遠という静謐から生れ出たような響きには、宗教心をも超えた、私たち生きとし生ける者が抱く普遍の感情——優しさ、死者への哀悼、そして死の「永遠の解放感」が表出されているように思う。人間の普遍のテーマ、「死」。背後から襲いかかってくる死と向かい合う魂を浄化してくれる、究極の「慰めの音楽」を、いま私たちは聴いている。

上野学園大学学長／ホール館長 船山信子

被災地音楽復興支援活動のご報告

追悼コンサートの純益金と会場で皆様からお預かりした義援金は、全て被災地の音楽の復興を支援するために使用することにしておりますが、多くの方々のご支援、ご協力により、これまでに別記の通り、被災された老人福祉施設や保育園、幼稚園など、ともすれば復興支援が遅れがちな施設へ、再生ピアノその他の楽器類を届ける費用に充てることができました。ピアノは、有志の方々からご寄付いただき、橋本ピアノ様と小野ピアノ工房様によって修理調整を施して再生し、寄贈いたしました。小野ピアノ工房の小野哲さんによれば、「古いピアノは、劣化した金属や繊維の部品を取り替えれば、木の部分は古いほど良い音が出る。日本製も古いピアノは、良い木をしっかりと使っているの、良い音に再生出来る」そうです。ピアノをご寄付下さった

方々と被災地に少しでも良い音を届けたいと採算を度外視して修理調整に当たって下さった橋本ピアノの鈴木良副社長(当時)と小野哲さんには、深く感謝しています。また、再生ピアノを届けるだけでなく、ほとんどの施設を合唱団員の有志がお訪ねして、合唱を披露したり、入居者の方々と園児と一緒に歌を歌ったりして、交流を図ることも出来ました。

2015年は、6月19、20日に石巻市の2つの保育園と仙台市および名取市の2つの老人福祉施設を、11月29日には釜石市鶴住居町の養護老人ホーム「五葉寮」を訪ねました。

「五葉寮」訪問は、指揮者の前田幸康さんとピアニストの平野裕樹子さん以下21名、朝早く東京を発ち新花巻駅から貸切バスで岩手県内を往復する



石巻市 ふたば保育所



石巻市 アリス保育園



名取市 なとり



鶴住居町 五葉寮



名取市 なとり



鶴住居町 五葉寮

という日帰りの強行軍でした。私たちが訪ねたのは、ちょうど各施設に分散避難していたお年寄り達が再建なった「五葉寮」に全員戻った再出発の日でした。ピアノは、オーケストラに参加して下さっている西本徳子さんからのご寄付、小野ピアノ工房で念入りに修理調整していただきました。愛用していたピアノが再生され、被災地で第二の「人生」を送る姿も見たいと、西本さんもバイオリンを抱えてツアーに参加。ミニコンサートは、合唱のほか、平野さんと西本さんの独奏やデュオも加わって、中身の濃いものとなりました。ピアノは見事に再生され、柔らかな音色を響かせていました。帰途少し足を伸ばして、津波で町長以下多くの職員が亡くなった大槌町役場の跡を訪ね、犠牲者のご冥福を祈って廃墟に向かって拝礼しました。ここは、震

災遺構として残すかどうか議論中だそうです。

私たちは、津波で流失・損傷したピアノの復旧をほんの少しお手伝いしたに過ぎませんが、それでも、被災地に良い音を届けて、大切な人を亡くしたり、怖い思いをしたりして傷ついた心を少しでも癒やしていただきたいという追悼コンサート参加者の思いは、実現出来たのではないかとと思っています。「来年まで生きているから、また来てください」と涙ぐむお年寄りや、「またきてねー」と元気に叫ぶ子ども達の顔が目には焼き付いています。ピアノを届けることもさることながら、これを通じて始まった被災地の方々との交流を、継続して深めてゆくことも大切なように思います。

追悼コンサート実行委員長 塩谷隆英



仙台市 春の森から



仙台市 春の森から



鶴住居町 五葉寮
玄関前にて

★再生ピアノ(計11台)

- 宮古市 介護老人保健施設「ほへみの里」
(後に再建されたグループホーム「たろう」に移管)
- 田野畑村 特別養護老人ホーム「リアス倶楽部」
- 岩泉町 グループホーム「いわいずみ」
- 釜石市 託児施設「虹の家」
- 仙台市 特別養護老人ホーム「春の森から」
- 名取市 介護老人保健施設「なとり」
- 大槌町 「大槌保育園」(2台)
- 大槌町 「吉祥寺」
- 鶴住居町 養護老人ホーム「五葉寮」
- 鶴住居町 「鶴住居保育園」

★鼓笛隊用ドラムなど

- 大槌町 「みどり幼稚園」
- 鶴住居町 「鶴住居保育園」

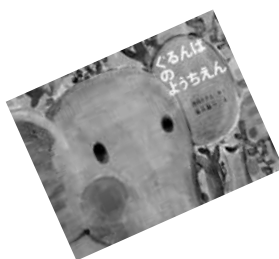
★マラカス

- 大槌町 「吉里吉里保育園」

★電子ピアノ・クラビノーバ(計2台)

- 石巻市 私立「アリス保育園」
- 石巻市 市立「ふたば保育所」

これまでに楽器をお届けした幼稚園や保育園に、2015年のクリスマスのご挨拶は絵本をお送りしました。



かわいらしいお礼状をいただき、私達が元気をいただきました

東日本大震災メモリアル管弦楽団出演者

◆第1ヴァイオリン

緒方 恵 コンサートミストレス

海保あけみ

佐川裕子

真中望美

國吉紫苑

吉川哲生

◆フルート

野口博司

多久和怜子

◆オーボエ

小林 裕

二山 都

◆ティンパニ

清澤亜美

◆ハープ

三宅美子

◆オルガン

川越聡子

◆第2ヴァイオリン

吉原葉子

西本徳子

松崎素子

大森佳奈

◆クラリネット

兼氏規雄

野宮奈瑠実

◆ファゴット

高林美樹

嶋志田夏美

◆ヴィオラ

佐々木真史

磯 晃男

光行澄子

吉田典代

加藤 熙

河合訓子

原口朝子

千年美菜子

前田利祐

◆ホルン

下田太郎

齋藤善彦

高橋朋子

丸茂 新

◆トランペット

海保 泉

民谷和大

◆チェロ

羽川恵子

山岡真弓

加藤陽子

井崎瑛恵

◆トロンボーン

栗田雅勝

谷口 萌

小倉史生

◆コントラバス

杉原茂範

追榮 祥

東日本大震災メモリアル合唱団出演者

◆ソプラノ

阿部紀子
上野由起子
大森みま子
岡本智子
小川律子
萩野直美
加藤方子
兼子美貴
川上 薫
川崎由紀子
川村説子
橋田浩子
久保田恵子
小池直子
小林真利子
佐々木清美
佐々木緑
滋野奈津美
篠塚智子
鈴木仁美
仙波京子
楚山静子
竹内史子
竹内真名
竹田貴子
田中温子
棚橋佳子
土屋貴子
中島知恵
永瀬いち子
早川由希子
平岡ひろ子
藤田桂子
増田昭子

宮田励子

村岡麗子

室木梨沙

山口恵子

山下文子

吉田小智子

和田久仁子

◆アルト

青木由実子
荒井華子
伊藤静子
今溝恵子
岩端由美子
植月樹菜
内田友子
加倉井今日子
梶原典子
河田美由紀
黒田有里子
小柴ひとみ
小林史子
小林陽子
佐藤容子
白井悦子
高橋洋子
瀧来佐穂
竹岡真美
竹林尚子
多田久子
津賀恵理
遠山木乃美
中野みほ
野島幸代
橋爪里佳

花形由美

平石恵津子

広瀬容子

松田和子

真野美千代

村上照子

村田百合

森田君子

守屋 静

森 米子

矢野良子

山崎由美子

山田久子

山田ゆかり

吉村節子

渡部恵子

◆テノール

石井泰裕
伊藤正徳
上野紘機
大久保孝義
太田紘子
上島 敏
岸 粧文
栗原康明
小谷一夫
塩谷隆英
鈴木 昂
富松太基
長尾正樹
永野康雄
中村晴永
成田本行
細川 仁

松本洋一

間部健太郎

安田春夫

◆バス

青木修三

荒川昌夫

市井善博

大橋正教

葛西英一

近藤安雄

近 正明

三才萬里

鈴木 徹

高橋正夫

竹内智之

田澤雅昭

任田弘道

長崎幸司

野辺博康

原田保孝

広畑俊成

干場信之

宮川勇蔵

森 正明

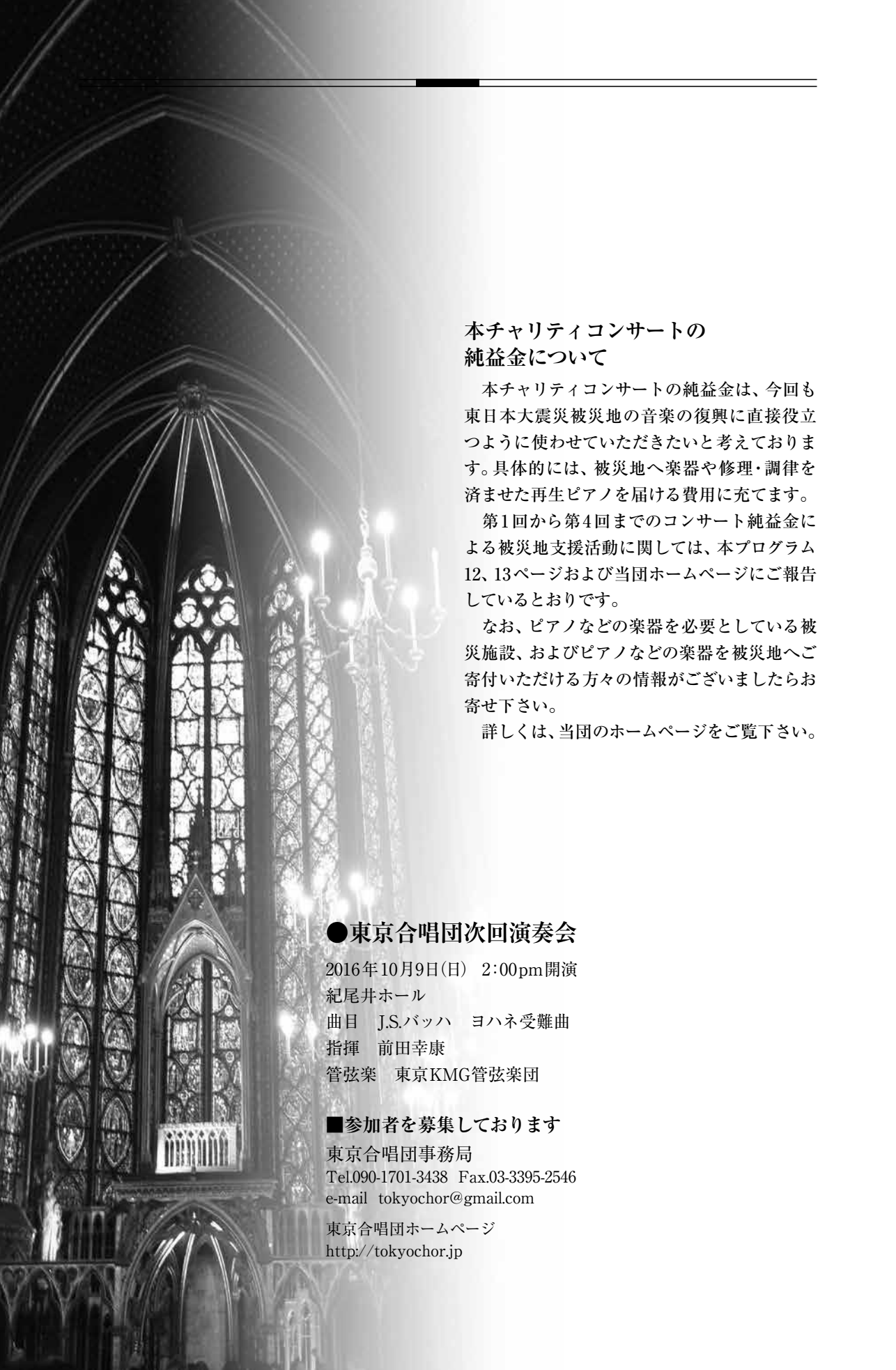
柳沼 壽

山岡成行

山田 亮

山本洋一

吉富六郎



本チャリティコンサートの 純益金について

本チャリティコンサートの純益金は、今回も東日本大震災被災地の音楽の復興に直接役立つように使わせていただきたいと考えております。具体的には、被災地へ楽器や修理・調律を済ませた再生ピアノを届ける費用に充てます。

第1回から第4回までのコンサート純益金による被災地支援活動に関しては、本プログラム12、13ページおよび当団ホームページにご報告しているとおりです。

なお、ピアノなどの楽器を必要としている被災施設、およびピアノなどの楽器を被災地へご寄付いただける方々の情報がございましたらお寄せ下さい。

詳しくは、当団のホームページをご覧ください。

●東京合唱団次回演奏会

2016年10月9日(日) 2:00pm開演

紀尾井ホール

曲目 J.S.バッハ ヨハネ受難曲

指揮 前田幸康

管弦楽 東京KMG管弦楽団

■参加者を募集しております

東京合唱団事務局

Tel.090-1701-3438 Fax.03-3395-2546

e-mail tokyochor@gmail.com

東京合唱団ホームページ

<http://tokyochor.jp>

本公演に
ご支援をいただいた方々

協力 上野学園 石橋メモリアルホール

後援 秋田魁新報社

岩手日報社

学校法人上野学園

河北新報社

時事通信社

台東区

台東区合唱連盟

東奥日報社

トムソン・ロイター

日本経済新聞社

福島民報社

福島民友新聞社

山形新聞・山形放送

読売新聞社 (五十音順)

協賛 株式会社クラレ

トヨタ自動車株式会社

バン産商株式会社(台東区)

株式会社須賀楽器・駿台音楽院・

スガスタジオ(千代田区)

西村和素 株式会社ホテルニューカマクラ社長

前田幸康サポータークラブ

小野 哲 小野ピアノ工房調律センター代表

内山正紀

藤崎長之助

星 佳芳 (順不同、敬称略)

ここにお名前を記していない多くの方々にも
さまざまにご支援、ご協力を賜りました。
厚くお礼申し上げます。

モーツァルト：

アヴェ・ヴェルム・コルプス

Ave, ave verum Corpus
natum de Maria Virgine:
Vere passum, immolatum
in cruce pro homine:
Cujus latus perforatum
unda fluxit et sanguine:
Esto nobis prægustatum
in mortis examine,
in mortis examine.

故郷（ふるさと）

岡野貞一 作曲 高野辰之 作詞
番場俊之 編曲

うさぎおいし かのやま
こぶなつりし かのかわ
ゆめは いまも めぐりて
わすれがたき ふるさと

いかにいます ちちはは
つつがなしや ともがき
あめに かぜに つけても
おもいいづる ふるさと

こころざしを はたして
いつのひにか かえらん
やまは あおき ふるさと
みずは きよき ふるさと